

夢を語る。

「夢」なくして成功なし。

点と点を結び、線にする大切さ。



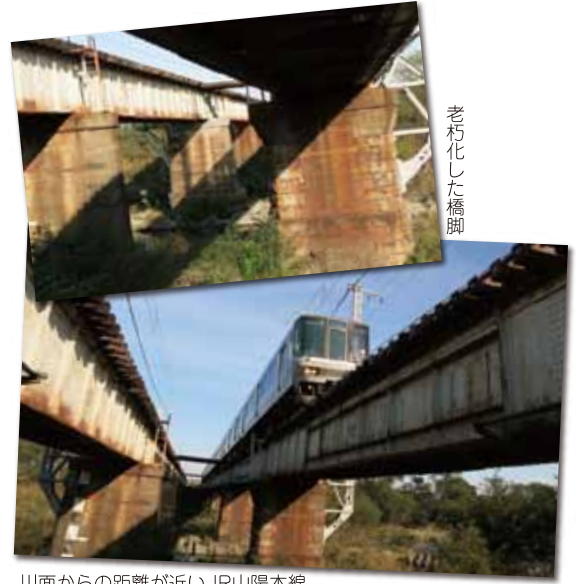
平成 26 年 12 月定例会たつの市議会 YouTube より

昨年はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」をきっかけに、官兵衛ゆかりの地を巡るツアーや八朔のひなまつりの起源を思い出していただけなど、市内外のお客様にも当市の歴史にふれていた。ただ、一年ではなかつたかと思いません。

今年、明治維新で活躍した志士を育てた吉田松陰の妹である文を主人公にした「花燃ゆ」の放送も始まり、好評を博しているとのこと。

その吉田松陰の言葉の中に「夢なきものに理想なし。理想なき者に計画なし。計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。」との格言があります。

どんなカタチであれ、成功するためには実行を伴い、それまでには計画、理想像を描き、そしてそもそもは夢物語と言われようが、夢がなくては始まらないのだということではないでしょうか？



老朽化した橋脚

川面からの距離が近いJR山陽本線

さて、たつの市において、竜野駅周辺整備事業や都市計画道路決定の実現に向け、様々な意見が検討されています。その中で揖保川の河床の上昇や堤防整備、JR揖保川正條鉄橋の老朽化、国道2号線正條交差点ならびに清水踏切の慢性的な渋滞、馬路川をはじめとする河川の氾濫による水害など個々の問題として議論されています。

そこで私は、これらの問題が「点と点」という別々の問題でなく「一本の線」で繋がっていると考えます。そしてこれらの解決の糸口として、昨年12月議会の一般質問において、ひとつの案を提案いたしました。

まず、揖保川地区の水害対策としては、揖保川の河床を下げたり堤防整備などの河川改修であり、それを妨げているJR山陽本線正條鉄橋は老朽化していることでもあることから、これら二つの改修を同時進行させるのです。そして正條鉄橋を改修・架けかえるとなれば、姫路市や加古川市が既に実現しているように、揖保川を渡り終えた時点からそのまま高架により街を横断していけば良いと考えます。そうすることで、南北の交通の流れも良くなり、正條交差点ならびに清水踏切の慢性的な渋滞も



橋の高架をそのままの高さに

鉄橋高架は街の南北交通の風通しにつながる(加古川西詰)

緩和されるでしょうし、ましてや今の計画の線路の上を通過させる跨線橋は、必要なくなりません。加えて、河川改修による馬路川の揖保川への流入の増加や片島川などの流入を妨げている馬路川の山陽本線橋での川幅の増幅が可能となり、片島地域を含め馬路川流域の水害も回避できると考えます。

これまで「揖保川町」という小さな自治体では困難であったものも、たつの市となればその規模も変わり、単なる夢物語でもなくなり、これこそ市町合併のたまものであると思います。

いまこそ、私たち市民や市が声をあげ、県・国そしてJR西日本が協議をしていく時期ではないかと考えます。

たつの市民の生活をこころ豊かにするために、また次世代の子どもたちのためにも夢と希望をもつて魅力あふれる地域づくりに向け、訴え続けて参る所存です。ので、夢を夢のまま終わらせないよう、皆様の力強いご支援ご協力をお願いいたします。

JR竜野駅に駐輪場設置。

不法駐輪をなくすため、JR 竜野駅北西部に駐輪場が新たに設置されました。景観もよくなるとともに、防犯にも役立っています。



JR竜野駅周辺の安全整備。

JR 竜野駅の南北を結ぶ跨線橋内に防犯カメラを設置するほか、駅周辺道路にも街路灯を設置し、事故や事件を未然に防ぐための要望をしています。

